

# 南会津 のうりんニュース



## 今月の写真:「実りの秋」(館岩村 森戸)

霧がかかる佐倉山を背景に、こうべを垂らして、収穫を待つ黄金色の稲穂。

これは、そばの花や紅葉とともに、南会津の“秋”を一層感じられる代表的な風景です。

## 今月の内容:

- 今月のトピックス
  - ・南会津の花弁・木工製品をPR
  - ・農業農村整備事業成果発表会が開催されました!
  - ・南会津地方遊休農地活用推進会議を開催!
  - ・下郷町学校給食等地域産品利用検討会を開催!
- 農林事務所からお知らせ
- ひとくち普及情報
  - 毒キノコの迷信に関する“よもやま話”
- 農林事務所からお知らせ
- 南会津の名水の話
  - 高倉山の湧水「下郷町倉水地区」(下郷町事業課産業振興班)
- 今月のコラム
  - 平成17年9月12日発行 福島県南会津農林事務所

## 今月のトピックス

### 南会津の花弁・木工製品をPR

あ いづステーションキャンペーンに関連して、「花」を活用した南会津地域のPR事業がJR福島駅において、行われています。



これは、南会津産の花弁と木工製品の展示により地域PRを行おうと「ふるさと南会津パートナーシップ推進協議会」が企画し、各町村とJA会津みなみ、地方振興局、農林事務所の協力により実施しています。

第1回目は6月17日から7月4日までの期間にヒメサユリの展示、第2回目は7月14日から8月19日まで、リンドウとカスミソウを週替わりで、南会津産木材により製作した飾り台とともに展示しました。

なお、7月14日にはJR福島駅東口改札正面において、展示開始式を行い、同推進協議会長とJA会津みなみ職員からJR福島駅長へのリンドウ花束贈呈も行いました。

今後も、第3回目として、9月15日のリンドウを皮切りに、カスミソウと週替わりに展示していく予定です。この事業活動により、南会津地域の花弁・木材加工製品の知名度アップと消費拡大が図られるとともに、南会津への誘客につながることを望まれます。

(地域農林企画室)

### 農業農村整備事業 成果発表会が開催されました!

の発表会は、農業農村整備事業における先進的な取り組み事例などの発表をとおし、農業土木技術関係者の技術向上を図ることを目的として、県、市町村及び水土里ネット(土地改良区)などの職員を対象に毎年おこなわれており、今年8月1日に、郡山市の「ビックパレットふくしま」において開催されました。

最近の農業農村整備事業は、農作業のし易い農地や維持管理手間のかからない農業用施設の整備だけを目的にするのではなく、生態系や景観などの自然環境の保全に配慮しながら進められており、これらに関する実施事例を学び活かすことは、これからの農業土木技術者にとっては大変重要なこととなっています。

当事務所からは、農村整備部の磯目主査が、下郷町音金

(2ページに続く)

(1ページから続く)



地区で昨年実施した生態系調査結果を基に、今後検討すべき工法などについての発表を行いました。この他、16件の事例が発表されましたが、発表後には多数の質問が出されるなど大変有意義な発表会となりました。

(農村整備部)

### 南会津地方遊休農地 活用推進会議を開催！

遊休農地の有効利用と発生防止に向け、「南会津地方遊休農地活用推進会議」が8月4日に、田島町の御蔵入交流館で開催されました。

南会津地方においては、担い手の減少や高齢化等により遊休農地が急速な広がりを見せており、2000年農業センサスによれば、耕作放棄地の面積は573.6ha、耕作放棄地率は15.2%となっており、今後も拡大が見込まれるところです。



会議は、昭和村産業振興課主幹の渡辺氏が「遊休農地

の活用に向けて」と題して講演を行ったあと、今年度実施される遊休農地解消の取り組みと、今後の推進方策について協議を行い、県、町村、関係団体が一体となって推進することを確認しました。

(農業振興部)

### 下郷町学校給食等地域産品 利用検討会を開催！

去る8月31日に、下郷町ふれあいセンターで第1回下郷町学校給食等地域産品利用検討会を開催しました。



検討会には、下郷町学校給食共同調理場栄養技師の相原由美子さんをはじめ、学校給食運営委員会代表者、地元生産者、県・町の関係機関などから13名が参加しました。

この検討会は、学校給食に地元農産物をより積極的に使用するためにはどうしたらよいかを検討したもので、当日は「まずは生産者と学校給食との情報交換体制を整備することが必要だ」といった意見が出るなど、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

この検討会をきっかけとして、より地産地消の取り組みが推進されることが望まれます。

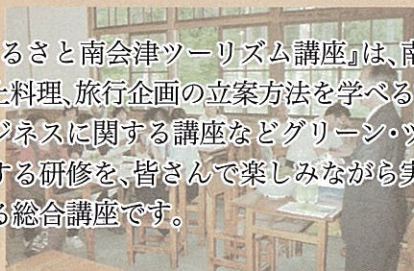
(地域農林企画室、農業振興部、農業普及部、森林林業部)

農林事務所からお知らせ

## ふるさと南会津ツーリズム 講座が開講されます!!

(地域農林企画室)

この『ふるさと南会津ツーリズム講座』は、南会津の歴史や郷土料理、旅行企画の立案方法を学べる講座や、アグリビジネスに関する講座などグリーン・ツーリズムに関する研修を、皆さんで楽しみながら実践的に学習できる総合講座です。



### ふるさと南会津ツーリズム講座開講式

日時 10月5日(水)13:00~

場所 田島町御蔵入り交流館

講演会

『体験型観光と地域経済を考える』(予定)

講師 日本エコツーリズム協会

理事 山田桂一郎 氏

問い合わせ先

地域農林企画室(0241-62-5866)、南会津地方振興局

地域づくり・商工労政グループ(0241-62-5207)

## 毒キノコの迷信に関する “よもやま話”

(森林林業部)

暑い夏も終わりを告げ、天然のキノコが南会津の豊かな森のあちこちに顔を出します。スーパーマーケットではなかなか手に入らない天然キノコの味をぜひ味わってもらいたいところです。ただし、次のような「キノコの見分け方」の言い伝えには**要注意!**

- ① 色鮮やかなキノコは毒、地味な色合いのキノコは食べられる。
  - ② 縦に裂けやすいキノコは食べられる。
  - ③ キノコの煮汁に銀のスプーンをつけ、黒くなるとそのキノコは毒である。
  - ④ 虫・ナメクジの食べ跡のあるキノコは食べられる。
  - ⑤ 枯れ木にはえるキノコは食べられる。
  - ⑥ においのよいキノコは食べられる。
  - ⑦ ナスと一緒に煮れば毒が消える。
  - ⑧ 塩漬けにすればどんなキノコも食べられる。
- これらは迷信ですので**信じてはいけません!**



ツキヨタケ



カキシメジ



クサウラベニダケ

毒キノコを食べてしまったときは、最悪の場合は死亡してしまいますので、知らないキノコや種類の判定が疑わしいキノコは、採らない、食べないが基本です。

### 農林事務所からお知らせ

## 新しい「田舎滞在」ガイドブックと データブック、及びホームページが 完成!!

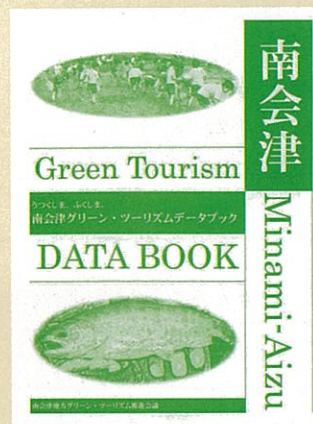
(地域農林企画室)

南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議では、南会津郡内でグリーン・ツーリズム活動に取り組む個人・団体が共通に使うことができる資料を目指し、「南会津グリーン・ツーリズムガイドブック」と「南会津グリーン・ツーリズムデータブック」を作成しました。

両ブックに共通することは、南会津の「売り」である、『自然』『農林業』『歴史文化』をテーマ化して紹介し、南会津地方のグリーン・ツーリズムが分かるように構成してあります。

この「PR道具」により、南会津地方のグリーン・ツーリズム関係者が情報の共有化を図るとともに、首都圏などに南会津地方のグリーン・ツーリズムをPRしたいと考えています。

「ガイドブック」→  
ガイドブックを「見る」だけで、南会津にあるもの、南会津で出来ることが分かるように紹介してあります。



←「データブック」  
「読む」ことにより、南会津地方の求める情報が得られるように、情報が整理されています。

両ブックの内容をもとにホームページ  
(<http://www.aiduminami.or.jp/inakataizai/>)も作成しました。皆さんもどうぞ、ご活用下さい。

## 南会津の名水の話

# 高倉山の湧水

(下郷町倉水地区)

下郷町事業課産業振興班

下郷町の中心部を走る国道121号線から県道舟ヶ鼻・下郷線へ進み、そこから大内地区へ向かう途中にその清水が湧き出ています。

この水は、高倉山(標高1307.5m)からの湧水で、現在まで涸れることなく日々の暮らしを潤し、貴重な宝の水として守り続けてきました。

地元の倉水地区では町づくり事業を利用して、周



辺にため池や東屋などの環境整備を図り、憩いの場として提供しています。

また、近くには下野街道(旧街道)があり参勤交代など多くの人々がこの街道を往来し、その際この湧水で喉を潤したのかもしれませんが。

## 今月のコラム

### 自然災害への備えを

今年も台風の季節がやって来ました。台風11号は房総半島を縦断し太平洋へと抜けたため、幸いにも南会津地方は大きな被害を受けませんでした。

台風の発生は8月から9月にかけてが最も多く、年間平均26.7個の発生があり、そのうち日本に上陸するのは約2~3個だそうです。しかし、昨年は1951年以降の気象庁の統計では過去最多となる10個もの台風が上陸しました。

台風の激しい風雨は河川の氾濫や土砂崩れを引き起こし、尊い人命や家屋・財産を奪い農作物や経済活動に甚大な被害をもたらします。

考えてみれば、日本列島は毎年年間を通じ周期的に自然災害の脅威にさらされています。まず、冬季には日本海側と東日本では降雪があり、年や場所により豪雪被害がある。春先は遅降雪被害や霜害、6月~7月は梅雨前線による集中豪雨被害、夏は干魃又は冷夏による低温障害、台風被害、秋は秋雨前線による集中豪雨被害と枚挙に暇がない。

そのほか、時節を問わずに襲ってくるものが地震である。



地震国日本にあっても、最近は大規模な発生が多く、昨年後半以降だけでも、10月の新潟中越地震、12月のスマトラ沖地震(これは海外)、今年1月の福岡県西方沖地震、8月の宮城地震と新潟中越地震というように立て続けに発生しており、多くの人命を奪い家屋やライフ

ライン等に膨大な被害を与えています。そのうえ、近い将来必ず起こるとされている南海大地震や、30年以内の発生確率が99%との予測の宮城県沖地震にあっては、いつ起こっても不思議でない状況のため、とても不安で誰もが無関心でいられないはずです。

これらの災害にも、発生が予測できるものとそうでないものがあり、予測できるものは事前に対策を講じて災害に備えられますが、地震や集中豪雨のように発生の予測が難しいものでも、日頃の心構えにより被害を最小限に押さえることは可能です。それはいつ災害が発生しても対処できるように、日頃から安全確認について習慣づけをおこなうことです。「災害は忘れた頃にやって来る」といいますので、まずは、日頃から災害への心構えをいたしましょう。

(企画部総務グループ課長 大竹啓一)



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



当紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。